

八尾ベースボールクラブで野球を続けている三輪選手(左端)と荻ノ迫選手(右端)。左から2人目が河島代表―大阪府東大阪市 (柿平博文撮影)

甲子園断念…でも野球がしたい!

元球児の再生 八尾から

部員や監督との不和などで高校野球部をやめざるを得なくなり、甲子園を目指せなくなった元高校球児らを受け入れ、再生の場を提供している社会人野球チームが大阪府八尾市にある。合言葉は「夢かなうまで挑戦」。プロ野球選手を誕生させたこともある『再生工場』の創設者は、「拾ったらなあかん」と優しい視線で彼らの成長を見守っている。(桑村朋)

①強豪校を退部

7月の平日夜、同府東大阪市内の練習場で練習を始めたのは「八尾ベースボールクラブ(BC)」のメンバー。創設者の河島博さん(58)が、通信制高校3年(三輪力也さん(17)を指導す



社会人チーム受け皿「拾ったらな」

と、三輪さんも笑顔で応えた。昨秋まで府内の私学の強豪野球部の主将だった三輪さんは、野球への考えの違いから部員と対立、自ら退部を選んだ。「甲子園には出られない」と自信を失いつつあったが、昨冬、中学時代の野球部監督から八尾BCを紹介された。「久しぶりにバットを振ってみたら楽しかった。上下関係も学べ、良い環境です」と居心地の良さを語る。社会人の高いレベルにも食らいつき、現在は捕手として活躍中だ。

三輪さんのように高校を辞めた元球児はほかにもいる。荻ノ迫陸輝さん(18)は通信制高校3年。も府立高校野球部の主将だったが、監督と意見が合わず退部。だが、「やっぱり野球がしたい」と八尾BCの門をたたいた。

甲子園を目指すかつての仲間たちの姿を「初めは見ただけでなかった」と話すが、「今では純粹に応援したいと思える。大人とやるうちに少しは成長したのかも」と笑う。

②可能性を開花

指導者として甲子園出場経験もある河島さんが八尾BCを創設したのは平成17年。「指導していた母校の野球部員から『プロや社会人は無理だが真剣に野球を続けたい』と声をかけられた」と当時を振り返り、「可能性を秘めた彼らから野球を奪ってはいけない」と話す。

部員は17、28歳の23人。自前の倉庫はなく、道具は部員の車に載せて運ぶなど恵まれた環境ではないが、都市対抗野球や全日本クラブ野球選手権の上位進出を目指し活動。昨年から地元中学生チームの指導なども行っている。

河島さんは「高校野球だけが野球ではない。過去の事情はいろいろあるが、再生して潜在能力を開花させたい」と語る。過去にはOBがプロ入りした例もあり、「またプロに行く子が出れば、指導者冥利に尽きます」と、「再生の場」の発展を誓った。